

サステナビリティレポート 2026

SUSTAINABILITY REPORT 2026

 トヨタ輸送株式会社



TOP MESSAGE



トヨタ輸送は1952年の創立以来、『お客様に荷物を安全・安心・タイムリーにお届けする』という原点のもと、現場を何よりも大切にしながら、交通安全・作業安全を最優先とする企業風土の醸成に努めてまいりました。

しかしながら、近年、物流業界を取り巻く環境は大きく変化しており、安全の確保にとどまらず、脱炭素社会の実現、ドライバー不足への対応や働きやすい職場環境づくりなど、企業に求められる責任は一層広がっています。

このような社会の要請に対し、当社は「社会・地球の調和のとれた持続可能な発展に率先して貢献する」というCSR方針のもと、サステナビリティ経営をより推進し、これからもその責任に対し着実に果たしてまいります。

本レポートでは、地球に配慮した「環境」への取り組み、働く仲間一人ひとりを大切にする「人」づくり、そして、何にもまして最優先すべき「安全」の3つに焦点をあて、当社の具体的な取り組みと進捗をご紹介します。

これらの取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

今後とも、皆様の変わらぬご支援とご期待を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長執行役員
松本 光一

トヨタの物流面で グローバルに最大限貢献

「安全に」「高品質の状態を保ち」「指定された日時に」「低コストで」「環境にやさしく」
”輸送（作業）”を行い、高水準な物流サービスを提供します。

SUSTAINABLE PURPOSE



環境

ENVIRONMENT

物流そのものを、環境対策へ

モーダルシフトや共同輸送、車両の高効率化、再生可能エネルギー活用などを通じて、物流効率化とエネルギー使用の両面から環境負荷低減を進めています。



人

HUMAN RESOURCE

人が運ぶ、人が支える

高品質な物流サービスの提供は、一人ひとりの「人」の力です。健康管理、安全衛生、教育、スキル向上、働きがい、キャリア形成を通じて、人を大切にする基盤づくりを進めています。



安全

SAFETY

事故ゼロを目指す文化づくり

「安全」は全てに優先する「経営の最重要課題」の一つとしてとらえ、機材や安全管理の仕組みの高度化、教育、安全意識向上の取り組みを通じて、現場に根付いた「安全文化」の醸成に取り組んでいます。

環境、人、安全。
すべてがつながり合い、持続可能な物流は成り立つ。

環境への取り組み

物流そのものを、 環境対策へ



モーダルシフトや共同輸送、車両の高効率化、再生可能エネルギー活用などを通じて、物流効率化とエネルギー使用の両面から環境負荷低減を進めています。

CO₂排出量の削減

① 物的対策 車両・施設の低炭素化

機材では、車の電動化による重量増加に対応し、最大積載量を高めた「T-MODEL」や、積載容積を拡大した「25mフルトレーラ」導入による高効率化、またソーラーパネル搭載による燃費向上を進めています。施設面では、本社屋ソーラー発電や再エネ電力プランへの切替を行っています。

最大
積載量
UP

電気自動車 従来4台→5台搭載可能となった



搭載車が全て電気自動車の荷姿一例

高効率な機材の例①T-MODEL



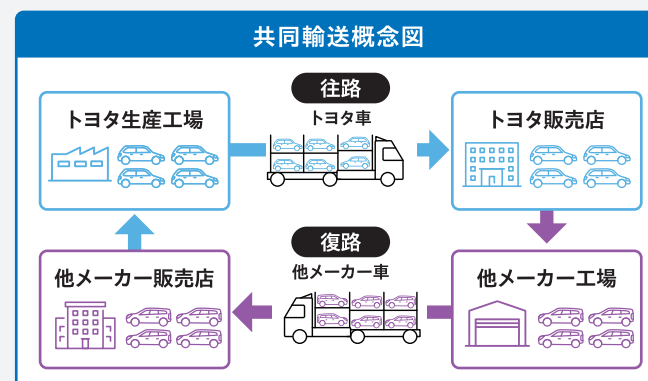
積載車ソーラーパネル

② 物流効率化 モーダルシフト・共同輸送

部品輸送では、2006年より名古屋ー盛岡間を「鉄道輸送化」し、完成車輸送では、運んだ帰りの空きスペースを活用し国内他メーカーの新車を輸送する「共同輸送」を実施。これらの「モーダルシフト」「輸送効率向上」により、環境負荷の低い輸送ネットワークを構築しています。



高効率な機材の例②25mフルトレーラ



省資源・リサイクル活動

① リサイクル・資源循環 各種エコプロジェクト参加

身近なリサイクル活動を通じて、資源の有効活用と環境保護、さらには社会貢献につなげています。一人ひとりの小さな行動が、地球と人々の未来を支えるという考えのもと、各種エコプロジェクトへの参加を続けています。



ニチバン巻心
ECOプロジェクト

使用済みテープの巻心を回収・再利用。2025年過去最高の596個を回収。



アイシティ
ecoプロジェクト

使い捨てコンタクトレンズの空ケースをリサイクル。



エコキャップ運動

ペットボトルキャップを売却した収益で、世界の子どもたちにポリオワクチン。



② 従業員への啓発 社内意識・モチベーション向上

現場の環境に関連する行動を数値等で可視化し、評価・表彰する仕組みを導入しています。省資源パフォーマンス表彰や環境レポートとしてCO₂排出関連データを開示することにより、社内の意識やモチベーションの向上を図っています。



省資源
パフォーマンス表彰

電気・水・社用車燃費・ごみ排出量の前年比削減を部署別に算定し、成果上位の部署を表彰。



環境レポートの
展開

CO₂削減意識の向上を目的とし、当社全体のCO₂削減目標や事業所別排出量の推移をまとめ展開。



油漏れ予防の
模範者表彰

社会的影響が大きい、機材からの油漏れの予防を特に積極的に行っている乗務員・作業員を選定し、表彰。



③ 地域社会への啓発 環境への思いを地域へ

従業員だけでなく地域の皆さまへも、物流の現場から環境への想いを伝えています。学びの場の提供や、街を走る車両のメッセージを通じ、社会全体の環境活動の輪を広げています。

環境教室の開催

豊田市の小学校児童を対象に実施。地球温暖化について学び、止めるために自分たちにできることを一緒に考える機会を提供。



環境ラッピング車両

「環境にやさしい物流サービスのご提供」をコンセプトに製作。現在5台が下山営業所を起点に全国各地を運行。



HUMAN RESOURCE

人や社会への取り組み 人が運ぶ、 人が支える



トヨタ輸送は、社員一人ひとりの健康と働きがいを土台に、安心していきいきと働き続けられる会社を目指しています。

従業員の健康管理と働きがいの創出

① 健康管理・安全衛生 健康経営の推進

2022年に健康宣言を制定し、健康診断の拡充やSASスクリーニング検査の全社員への開放、相談窓口の設置など、心身両面からの健康支援に取り組んでいます。また、乗務員の熱中症対策としてクールシェルターの設置など、職場環境の改善にも努めています。

2023年から4年連続で
「健康経営優良法人(大規模法人部門)」に認定



② 健康管理・安心安全な職場づくり 乗務員の健康と安全を守るための 点呼内容の充実

当社の点呼では、酒気帯びの確認や車両点検、運行内容の確認に加え、乗務員の健康状態も丁寧にチェックしています。体温・血圧の測定や、睡眠時間、疲労度合い、疾病治療状況、服薬の有無、心配事・悩み事に至るまで確認し、当社基準に照らし、安全に運転できる状態かを判断しています。さらに、すべての運行で中間点呼を行い、法令以上の頻度で確認を徹底することで、事故の未然防止はもちろん、安心して働ける環境づくりと健康維持の両立に取り組んでいます。



健康状態 チェック項目

点呼時測定

- 体温
- 血圧数値

自己申告

- 睡眠時間(夜勤に入る前は業務開始前の仮眠の有無についても申告)
- 睡眠時無呼吸症候群の治療状況(CPAP)
- 疲労度合い
- 通院や服薬有無(医師の診断結果、薬の成分についても申告)
- 心配事・悩み事の有無

③ 健康増進・意識向上 健康チャレンジ8

朝食・間食・適正体重・運動・飲酒・禁煙・ストレス・睡眠の8つの健康習慣改善プログラムを全社展開。目標達成者・健康診断優秀者には報奨品を贈呈し、全員参加を促進しています。

01 朝食

毎日朝食をとり、規則正しい食習慣を身につける。

02 間食

菓子類や甘い飲み物を控え、間食の量・回数を意識的に減らす。

03 適正体重

自身のBMIを把握し、食事と運動で適正体重の維持・達成を目指す。

04 運動

1日30分以上の運動を週1回以上続ける。

05 飲酒

休肝日を週1日以上設けるなど、飲酒量・頻度を適切にコントロールする。

06 禁煙

禁煙外来の活用や禁煙デーへの参加を通じて、喫煙習慣からの脱却を支援。

07 ストレス

セルフチェックや相談窓口の活用で、ストレスを早期に気づき対処する。

08 睡眠

熟睡できるよう、規則正しい就寝・起床習慣を身につける。

社員のChallengeVoice.

事務員 / 社員A

睡眠、間食、運動を目標にしました。ヨガマットをかうきっかけにもなってよかったです。間食を減らすコツはまず、買わないこと(笑)。楽しんでできたのもよかったです!

整備員 / 社員B

8つの目標が“高すぎず、特別じゃない”という点がいいですね。クオカードがもらえると参加意欲も高まります! これからも参加したいです。

指導員 / 社員C

夜8時以降の間食をやめたことで、体重増加に歯止めがかかりました。健康を意識するようになりましたね。

④ 働きがい・キャリア形成 多様な働き方と早期昇格

在宅勤務やフレックスタイム制の導入、有給休暇取得の推進など、社員のライフスタイルに合わせた働き方を支援しています。また、キャリアアップ支援や早期昇格・昇給制度の整備など、やりがいを持って成長できる環境づくりにも力を入れています。



年間15日以上 有給休暇の取得

月1回以上・年間15日以上の有給休暇の取得を基本ルールに設定

早期昇格・ 昇給制度

昇格ピッチを短縮し、意欲ある社員の挑戦を後押し

人材育成への 注力

継続的な成長を支えるキャリアアップ支援を実施

安全への取り組み

事故ゼロを目指す文化づくり

人的ミスを補完し事故リスクを低減するため、最新の安全機器・システムを積極的に導入。テクノロジーの力で、より安全な労働環境を構築しています。



物的対策導入による事故防止

① AI搭載ドライブレコーダー データに基づく安全教育へ

運転挙動や周囲の状況を自動解析するAI搭載ドライブレコーダーの試行を開始。データを活用した安全教育や改善策の立案に活用し、科学的アプローチによる事故防止を推進しています。



ながら運転の検知

シートベルト未着用の検知



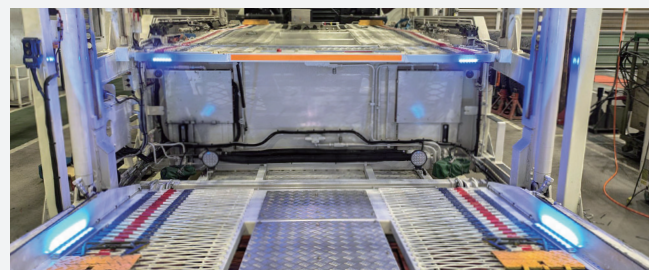
喫煙の検知

車間距離不保持

※本写真はNauto Japan合同会社の提供によるもので、写真に写っている人物は当社関係者ではありません。

③ 積載車へのLED・センサー装着 作業手順ミスを未然に防げる環境へ

荷台へのLEDやセンサー装着で異常に気づきやすい環境を整備し、商品車積み降ろし作業時の荷台の誤操作や積み荷同士の接触事故防止を図っています。



② フォークリフトへのカメラ・レーザー装着 作業員の死角をサポートする環境へ

運転席から見づらい箇所で荷扱いを行う際の視認性を良くするため、カメラとレーザーを装着し、荷崩れの事故防止を図っています。



爪水平レーザー（'25）



上層カメラ（'25）

安全管理レベルの向上

① 安全総点検 6つの観点・60項目以上を網羅した年次点検

交通事故・作業事故の未然防止を目的に、安全総点検を毎年実施。管理体制から安全意識まで6つの観点・60項目以上を網羅し、組織全体の安全管理レベルを継続的に底上げしています。



管理体制
組織・体制の整備状況



労働時間
過重労働の防止



運行・作業管理
手順の遵守状況



教育訓練
研修・訓練の実施



健康管理
乗務員の健康状態



安全意識の高揚
文化・風土の醸成

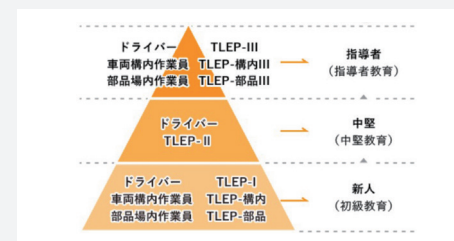
② 作業観察サポートツール（2025年度導入） 乗務員個々の特性をタブレットでリアルタイムに共有

各乗務員の特性・過去の観察データ・当日の観察内容・稼働内容を観察者がタブレット端末を通じてリアルタイムに共有できるツールを導入。各現場の観察者が乗務員の特性や過去の指導内容を確認でき、効率的な観察・指導を行えることで、安全管理レベルのスピーディーな向上につなげることができます。

安全を育む技能と意識の醸成

① 教育・技能研鑽 TLEP（体系的教育プログラム）・ドライバーズコンテスト

トヨタ輸送グループでは、ドライバー・作業員を対象に、安全で高品質な物流を担う人材育成のための体系的教育プログラム「TLEP（Toyotayusou Logistics Education Program）」を実施しています。作業技能や物流知識の習得に加え、認定制度を通じた成長を支援しており、年間約200名が受講しています。また、運転・作業競技会「ドライバーズコンテスト」を開催し、知識・技能の研鑽と安全意識の向上を図っています。



TLEPにおける認定制度



TLEP実践



第24回ドライバーズコンテスト

② 意識啓発・風土醸成 全員参加で育む、安全文化

毎年、安全スローガンを全社員とその家族から募集し、職場ごとにポスター掲示。全社的な安全文化の浸透を図っています。

毎年の安全スローガン

2026年度
他人事ではなく自分事 意識も変われば結果も変わる 目指してみよう事故ゼロを!!

2025年度
一人ひとりが確実に 一つひとつを丁寧に 安全意識で事故ゼロへ

2024年度
危険の芽 気付いた人が摘み取ろう 注意し合える 安全風土

地域社会と 共に歩む企業として



地域に愛され、役立つ企業を目指し、地域安全・環境保全・社会福祉の三つの柱で社会貢献活動に取り組んでいます。

豊かな未来をつくる活動

1 地域安全・安心への貢献 交通安全教室・ゼロの日立哨

近隣小学校の児童を対象に交通安全教室を実施。死角体験・大型トレーラーへの同乗体験など当社ならではの企画で実感を持って学べる内容を提供。毎月「0」のつく日には「ゼロの日立哨」を継続実施しています。



2 環境保全・美化活動 植樹活動・道路美化活動

2023年よりモリコロパークにて植樹活動を継続実施。秋には社員と家族を対象に開催。また定期的に本社および全国各拠点周辺の美化活動を実施しています。



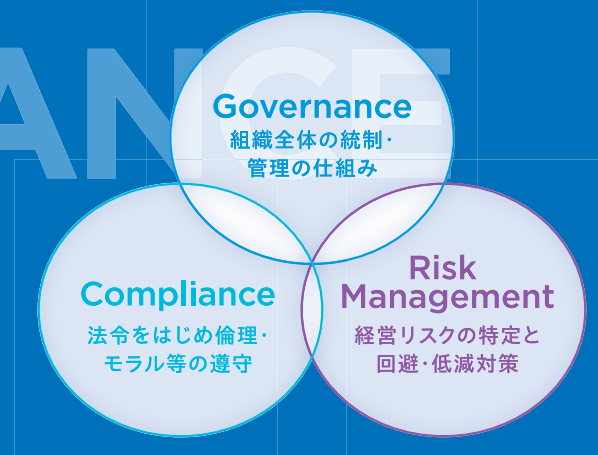
3 社会福祉・教育支援 献血活動・各種寄付・地域協賛

年2回本社に献血バスを招き、トヨタ協賛会中部支部とともに献血活動を実施。地域のお祭り・行事への協賛、赤い羽根共同募金・社会福祉団体への寄付・支援なども継続的に行っています。



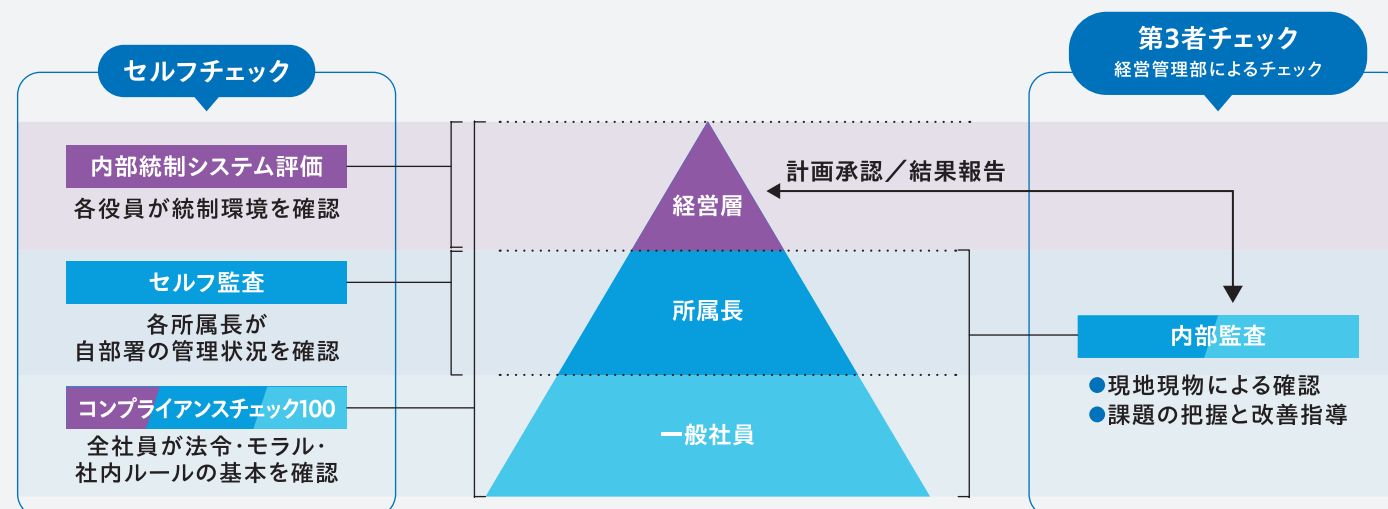
健全な経営体制と 透明性の確保

社会的責任を果たすため、ガバナンスとリスクマネジメント、コンプライアンスについて、管理機能を形骸化させず、実効性の高い運用を目指し取り組んでいます。



コーポレートガバナンス

社内の各階層の役割/立場に応じた「セルフチェック」と、各部署業務の適正性を確認・報告する内部監査の実施を通じた「第3者チェック」の両方の機能の実効性向上に注力しています。



リスクマネジメント

リスクマネジメント

リスク管理規定に基づき、当社経営に影響の強い「特定リスク」を洗い出し、回避策や被害を最小化する体制整備あるいは対応策の検討・実施を行っています。

〈一部特定リスクと対応事例〉 自然災害対応

災害時の対応手順を明確化したBCPを策定、定期訓練で従業員の意識と行動力を向上。



コンプライアンス

階層別法令教育・倫理研修の導入と社内監査機能の強化により、信頼性の高い経営を実現しています。

基幹職向け 倫理研修会開催

一般的なコンプライアンス研修とは異なり倫理に特化したプログラムで構成。

